

創立110周年 学園祭

テーマ「It's 笑 time !!」～開け青春の1ページ～

8月30日(金) 文化祭／8月31日(土) 第3回北陵祭／9月2日(月) 体育祭



出雲 北陵月報

No. 409

令和元年9月30日
出雲北陵中学高等学校
土江明文社 印刷

学園祭クラス対抗総合表彰

優勝 **3年5組**
2年5組

3位 3年6組

ポスターコンクール

最優秀賞 **福島 夕映** (3-6 斐西)

優秀賞 **佐藤 至将** (1-6 松四)

体育祭

優勝 **赤組**
(高校5組連合チーム)

2位 青組(高校4組連合チーム)

3位 黒組(高校1組連合チーム)

緑組(高校6組連合チーム)

文化祭

弁論大会最優秀賞

棕 一輝 (中1-1 塩冶)

本年度は創立110周年という節目の年の学園祭であった。例年とは異なり、地域、保護者の方にも参加していただき盛大に開催することができた。

文化講演では本校の卒業生で、冬季オリンピックに出場された浅津このみ様から「オリンピックに出場した変化したこと」と題した講演で本校生徒にエールをいただいた。その後、弁論大会、高校2年生のステージ発表を行った。2日目は、北陵祭として中学生と高校3年生の模擬店、高校1年生のクラス企画に加え、川跡地区、鷹巣地区、本校PTA保護者会や卒業生会の方にも様々な店を出店していただいた。また体育館では地域の皆様をお招きし、ステージイベントを盛り上げていただいた。また雨のため延期になった体育祭では、高校6チーム、中学校1チームで熱戦を繰り広げた。

お蔭様で思い出に残る素晴らしい学園祭となった。

吹奏楽部

中国大会で金賞受賞

5年連続13回目の全国大会出場決定！

第60回全日本吹奏楽コンクール中国大会

8月24日

倉敷市民会館 大ホール

5年連続の全国大会出場を目標に、生徒達は朝早くから夜遅くまで練習に励んだ。課題曲・自由曲は技術的にも音楽的にも難易度の高い曲で、練習では苦勞の連続であった。臨んだ本番では、練習の成果を存分に発揮し、素晴らしい演奏で観客を魅了した。

年々中国地区の学校のレベルは高くなり、どの団体が全国大会へ推薦されてもおかしくないほどの好演奏が続いた。その中でも、本校は高い評価を得て金賞を受賞し、目標としていた5年連続13度目となる全国大会の出場権を得ることができた。

全国大会では島根県、中国地区の代表として更に良い演奏・活動ができるよう、変わらず精進していった。またこれまで献身的にサポートしていただいた保護者の皆様をはじめ、卒業生や関係者の方々に對し、部員一同より感謝致します。

(顧問 原田 実)

トレーニングルーム完成

この度創立110周年事業の一環としてトレーニングルームを新設しました。この施設は、床面積約80㎡の木造平屋建て、最新のトレーニング機器10種を設置したところです。

今後、生徒達の筋力やパフォーマンスの向上をはじめ、心身の健全育成に活用していきたいと思っています。



【保護者会模擬店大盛況】

学園祭では今年も高校PTA、中学校保護者会役員の皆様によりかき氷の模擬店を出店していただきました。その売上利益全額(34,764円)を赤い羽根共同募金へご協力いただきましたので、ご報告いたします。

合唱部

高等学校部門Aグループ金賞
全国大会出場決定！

第58回中国合唱コンクール

時 9月21日

於 ふくやま芸術文化ホールリーデンス大ホール
NHKコンクールの中国大会から僅か2週間後、中・高合唱部として気持ちも新たに県のアグループ代表として中国合唱コンクールに臨み金賞を受賞、全国大会への出場を決めた。本校は、課題曲として「無声慟哭」から「蜂が一ぴき・..」(宮沢賢治 詩・林光 曲)、自由曲は混声合唱とピアノのための「さんぼうげ」の日々から「ねばすけぼうず」(デ・ラ・メア 詩・横山潤子 曲)を演奏した。言葉の意味を理解しながら表現しなければならなかったため、難易度の高い曲であったが、詩に込められた真意の表現を目指し今できる精一杯の演奏をすることができた。全国大会に向けてさらに精進していきたい。



これまで支えていただいた保護者の方々と卒業生の方々、地域の皆様に感謝申し上げます。

高等学校の部 銀賞

第86回NHK全国学校音楽コンクール

中国ブロックコンクール

時 9月8日

於 はつかいち文化ホールさくらびあ
本年度の課題曲は、映画「君の名は。」などの製作を手がけた川村元氣さん作詞の「僕は僕を見ている」、また自由曲はジャーナリスト故山本美香さんの著作をも

とにした作品で「僕の村は戦場だった」でした。言葉とは何かを生徒一人ひとりが考え、心の内側から出るエネルギーを感じながら、日々の練習に励んだ。

学園祭直後という厳しい状況の中、本番では今までの練習の成果を発揮することができた。惜しくも全国大会出場の夢は叶わなかったが、この結果を真摯に受け止め、今後も更なる演奏の向上を目指し、日々精進していきたい。また、これまで支えていただいた保護者の方々と卒業生の方々、地域の皆様に感謝申し上げます。
(顧問 太田裕子)

吹奏楽部

金賞受賞！

第32回全日本マーチングコンテスト島根県大会

時 9月15日

於 カミアリーナ

本年度は「海」をテーマにした委嘱作品でマーチングに取り組んだ。8月下旬から本格的に練習を再開し、約3週間という短い練習時間だったが、生徒達はよく努力し、本番では素晴らしい演奏演技を見せ、会場を魅了した。結果、金賞を受賞し、中国大会への出場権を獲得した。

10月にカミアリーナで行われる中国大会では、島根県代表としての誇りを持って演奏演技ができるよう、また全国大会に出場できるように、引き続き精進していきたい。

第28回出雲ドーム2000人の吹奏楽

時 9月7日

於 出雲ドーム

本校としては10年連続11回目となる単独での出演となった。8月末の中国大会後、練習時間が少ない中、生徒達は一丸となって練習に励み、本番では立派なパフォーマンスと演奏を披露した。

今後はマーチングコンテスト全国大会出場を目標に、更に一層の努力をしたい。
(顧問 竹内康貴)

第58回島根県高等学校音楽コンクール

時 9月10日

於 島根県民会館

本年度、本校からは5部門に計34名が参加した。結果は次の通りとなった。

〈声楽部門〉 2位 伊原弦希 (26北)
3位 桑原 天 (36北)
〈木管部門〉 2位 土井神奈 (35北)
3位 岡 夏未 (36北)
〈金管部門〉 3位 岡 夏未 (36北)
1位 勝部小夏 (36北)
〈弦楽部門〉 1位 勝部小夏 (36北)
(音楽科 竹内康貴)

中・高卓球部

全日本卓球選手権大会(ジュニア部)島根県予選大会

時 9月13・15日

於 島根県立体育館

〈男子シングルス〉
優勝 杉浦大和 (中3長)
4位 三村悠斗 (24北)
6位 小野泰和 (中1北)
※杉浦大和と全国推薦の山本歩が全日本選手権出場決定
〈男子ダブルス〉
優勝 山本 歩 (22北)・原田哲多 組
2位 三村悠斗・山腰洋平 組

※ダブルスは県高校選手権として実施のため、高校生のみ参加



○大会総評
杉浦が高校生活を連破し、初優勝を果たした。全日本選手権で課題を克服していきたい。
(顧問 古瀬泰之)

陸上競技部

第65回島根県高校新人陸上競技大会

時 9月15・16日

於 益田市陸上競技場

三段跳 4位 渡部優哉 (22平)
1年100m 5位 小片祐希 (11平)
400mH 8位 永岡歩望 (14北)
円盤投 7位 石崎李葉 (24北)

○大会総評

新チームで臨んだ今大会、入賞数は昨年を上回った。また、自己記録の更新も多数あり、夏の厳しい練習の成果が出た。渡部は惜しくもあと一步のところまで中国大会出場を逃したが、来年の高校総体に向け弾みがついた。

大会期間中、保護者の皆様や卒業生に応援をいただいたことに感謝し、更に精進して行きたい。
(顧問 別所美喜子)

ソフトテニス部

ダブルス4ペアが新人戦でのシード権獲得

令和元年度島根県高等学校ソフトテニス選手権大会

時 9月14・15日

於 松江市宮庭球場

〈シングル〉 優勝 安田 稜 (25北)
3位 白築椋真 (25南)

〈ダブルス〉

準優勝 山崎陽登 (25北)・杉本啓佑 (25北)
3位 安田 稜・白築椋真
ベスト16 奥井寛太 (25北)・神田好太郎 (13北)
ベスト32 野津広人 (14北)・手銭元輝 (22北)
この結果により、新人戦での団体第1シードを獲得した。全国選抜大会に出場できるよう頑張りたい。
(顧問 佐々木雄志)

野球部

島根県高等学校秋季野球大会

時 9月13日

於 平田愛宕山球場

週 摩 43001100002 11
出雲北陵 1000000420 7
最後まで粘りを見せたが敗れてしまった。多くの皆様のご声援、有難うございました。
(顧問 陶山浩史)

テニス部

島根県テニス新人大会

時 9月14・15日
於 浜山公園・真幸ヶ丘公園

《男子シングルス》
ベスト8 吉岡七生(25歳) 中国大会出場！
《男子ダブルス》 1回戦敗退
《女子シングルス》 3回戦敗退
《女子ダブルス》 2回戦敗退
○大会総評
吉岡は、シード権を守り安定した試合運びであった。多彩なショットを絡め、我慢強くなり、更に進化してくれるものと信じている。
(顧問 石川剛巨)

なぎなた部

第52回島根県武道振興大会

時 9月1日
於 島根県職員会館

《演技競技の部》
《中学生の部》
2位 佐々木璃子(中1)・神野真輝(中1) 北
《高校生の部》
優勝 日野愛理(32歳)・森本あか音(25歳) 北
《個人試合の部》
《中学生の部》 2位 福岡日南子(中2) 北
3位 手銭優果(中2) 北
《高校生の部》 優勝 森本あか音
○大会総評
県内の中高生で戦い白熱した試合を見せてくれ、大会を盛り上げてくれた。今後も各種大会に向け稽古に励みたいと思う。
(顧問 井上美代)

美術部

高木唯衣(2年) 特選

愛鳥週間用ポスター図案コンクール



表彰式にて
高木の作品が全
436点の内、上位
5点に相当する

特選を受賞した。8月24日には島根県立美術館で表彰式が行われたが、高木の作品は今後全国コンクールに出品される予定である。
《その他の入賞結果》
佳作 柳谷七星(26歳)

令和元年度美術課題発表展

時 8月31日
於 本校美術棟

一学期の部活動作品・授業作品や、夏休みに制作した新作を中心に展覧会を行った。
運営から受付まで手作りの展覧会であったが、一生懸命さが観た人に伝わる良い展覧会になった。多数の方にご来場いただき、有難うございました。
(顧問 石倉 正)

写真部

令和元年度撮影技術大会

時 9月6・7日
於 サン・レイク

今年度は全県から17校161名の参加があった。講師に東京工芸大学から5名の先生方をお招きした。本校からは1・2年生13人が参加した。まだまだ未熟な面が目立つが、1年生も制作意欲を燃やしており、これからの成長に期待している。
(顧問 村上 学)



第49回全国高等学校家庭科食物調理技術検定

時 8月25日
於 本校調理室

《1級合格》今岡舞風(34歳) 北
《2級合格》福岡春佳(23歳) 南
布野可菜美(23歳)

就職試験に向けた面接直前指導

9月3日(火)～5日(木)の日程で、今年度2回目の就職者面接指導が行われた。希望する企業も決まり、本番の試験を想定した内容で行った。緊張もあり、うまく

できなかった生徒もいたようだが、反省を生かし、本番に向けてしっかりと準備をして欲しいと思う。

中学校

第2回合同道徳

時 9月9日
講師 水谷厚志校長先生



今回は「泥棒と悪口」とどちらが悪いのか、「酒井大岳さんの「園長先生との一つの約束」のお話から、人に及ぼす言葉の力、ついでに水谷キヲ先生が求めた理想の人間像に関わる「美点凝視」について、また仁摩サントミュージアムの砂時計のお話から、時間とともに今できることを積み上げる大切さの三点について授業をしていただいた。

「生徒感想」

僕はこれまで悪口というものを軽く見ていました。悪口は時に人を殺す凶器となることを今日のお話で実感しました。僕は絶対に悪口を言わず毎日いい言葉をかけて過ごしていきたいと思います。
古瀬亮太(中1)

心に残ったことは「美点凝視」のお話です。水谷キヲ先生も「相手の長所を見なさい」という言葉を残しておられます。これからの世の中で苦勞するであろう対人関係に對し、とても役立つと感じました。
奥田林太郎(中2)

冗談や何気ない一言で人を深く傷つけてしまうこともある、その一言で人が助けられたり、相手を笑顔にすることもできるということを今日は教わりました。今後は思いやりを持って発言・行動できるようにしたいと思います。
荒薦綾香(中3)

令和元年度 第15回少年の主張 銀賞受賞

時 9月9日
於 平田中学校

弁士 棕 一輝(中1) 南
演題 頼る大切さ

緊張する中で、今大会だった、堂々とした態度と会場内に届く十分な音量が特に印象的だった。また、他校の生徒の弁論も聞きながら、自身も新たな生き方を見つけていた。今後の成長が期待できる素晴らしい結果であった。
(八木世津子)

出雲市国際交流事業で フィンランドを訪問

8月13～25日の日程で出雲市主催の「第19回交流の架け橋事業」に本校より中学2年生の荒木天花さんが参加した。

「生徒感想」



私は出雲市主催のフィンランド共和国カラヨキ市との相互派遣事業に参加しました。今回、私はカラヨキ市に行き、気候や食事、学校生活の違いを感じました。また、ホストファミリーにも親切に接していただき、毎日が充実していました。私は、この事業に参加して英語の「話す力不足」など今後の課題が見つかりました。今回学んだことをもとに海外との交流や勉強を頑張りたいです。
荒木天花(中2)

卓球部

全日本卓球選手権カデットの部 島根県予選

《13歳以下シングルス》
優勝 小野泰和 3位 田中悠斗(中1) 南
4位 濱田都希(中2) 南
《14歳以下》
優勝 佐藤卓斗 3位 森口 諒(中2) 南
《ダブルス》
3位 佐藤・小野組 森口・濱田組

○大会総評
この結果により、シングルの優勝者2名が全国大会への出場権を獲得した。見つかった課題を本大会まで克服したい。
(顧問 相場翔太)

作品と研究

校内弁論大会 最優秀賞

第15回少年の主張出雲市大会銀賞

『頼る大切さ』

棕 一輝 (中1 堀)

あなたは人を頼ってでも声を上げることが出来ますか？

突然こんな質問をされても、真意が分からないでしょう。僕はいじめを受けたから分かります。いじめられている人は、学校が嫌になるでしょう。しかも、まわりの人は助けてくれない。その人にとって、学校は「最悪のダンジョン」になるでしょう。

これから、僕のエピソードを紹介します。僕は小学校三年になった頃、いじめを受けました。はじめは僕への「からかい」でした。始めは流していました、次第に自分がバカにされているような気がして、腹が立って仕方ありませんでした。しかし、ここで自分が手を挙げてしまうと、自分もいじめている人と同じになりそうので我慢を続けました。し

かし、我慢をすればする程、いじめは日に日にエスカレートしていきました。相手は調子に乗り、毎日殴ったり、蹴ったりし始めたのです。

クラスメイトは遠巻きに眺め、誰一人助けてくれませんでした。自分で解決しようと先生にも相談をしてみました、何の解決にもならなかった。多分、先生もクラスメイトもふざけてやっていると思ったのでしよう。いじめられる辛さと理解されない孤独の中で、次第にクラスや学校が嫌でたまらなくなりました。

親にも心配をかけたくない。そんな思いも邪魔をして、誰にも相談できない日々が続きました。しかし、ついに抑えていた気持ちが溢れ出し、両親に自分の状況を泣きながら訴えました。

そこから僕へのいじめは転機を迎えました。僕の代わりに母が学校に行き、話し合いをして、僕の気持ちや現状を理解してもらえたのです。僕がいじめられた原因は、リアクションがおもしろいからだそうです。そんな事で僕をいじめていたのかと正直呆れましたが、それよりも、理

解され孤独から抜け出せた喜びの方が勝りました。今思うと、声をあげた事がいじめを解決に導いたように思います。

僕は思います。いじめと言うものは、受けた側が声を上げる事で初めてその行為が「いじめ」となるのだと。それが例え相手にとっては軽い気持ちのからかいやイジリであろうと。

どの人にもごく当たり前に生きて学校に行く権利があります。その権利を誰かが奪って良い訳がありません。

僕のいじめは解決し、今それを覚えている人はいないでしょう。しかし、どんな小さないじめでも、いじめはその人にいつまでも辛い記憶や体験を思い出させ、消える事はありません。人の人生に大きな傷跡を残すのです。

僕は自身の経験から訴えたい。声をあげよう！誰かに頼ろうよ！抱えこまずに話そうよ！人

に頼る事は決して格好悪い事でも何でもない。

僕はいじめを経験して、人を頼る大切さがわかりました。人に頼る場面は必ずあります。そういう時に素直に人に頼れるかどうかが問題を解決できるかのカギになります。そうする事で辛いいじめ地獄から抜け出せ、命を断たず未来を築けるから。これが僕のエピソードです。これを聞いた人の気持ちが少しでも変わればいいなと僕は思います。これから行動するのは、僕ではなくあなた達です。

今月の1枚

聖堂（シルエットの学習）

難波 武瑠 (3-6 湖東)

